



音戸大橋のむこうは『日招き大橋 (仮称)』

# 断酒 みどりの友

発行所 呉みどり新酒会  
事務局  
呉市押込 5-12-25  
渡部 憲方  
郵便番号 737-0915  
電話 33-5571  
発行人 渡部 憲  
編集代表 石橋 剛  
印刷 松広印刷



「初心」

常任相談役 田中 正直

去る二月には、創立四十六周年記念特別例会を無事に終える事が出来た。此の事実は何と云っても、呉みどりヶ丘病院院長、長尾澄雄先生の全面的な支援と御指導の賜である。

現在は、長尾院長のみぞ知られる当会発当初からの、云わば会の生みの親であり、育ての親なのである。先達会員も当時の方は現に一人も無く、初期の頃を知る者も殆んど皆無の現状である。長尾院長先生には半世紀以上に亘る我々アルコール症者の治療と回復に全力をあげて頂いて来ているのです。只々感謝の念のみである。

私自身未成年の頃から酒に溺れ、自分の歩む人生迄見失っていた、あの酒地獄……自業自得とは云え、アルコール依存症者の末路への旅路……大阪、釜ヶ崎での立ちん歩生活から、冬場には飯場暮らしと転々とした放浪、あまつさえ自分で自分の血液を売っては焼酎代に、…当での無い無気力な日々の数年…

目に見えぬ先祖の糸による導き？に操つられ、故郷「呉」に帰る事は出来たが、此の病氣「アルコール依存症」迄は清算出来ず、相も変わらずの酒、酒の日々の連続…

昭和四十八年、呉みどりヶ丘病院、長尾院長との出会い、命を救って頂き、その上断酒会に導き、巡り合わせて頂いた事により、何とかアルコールからの脱却を目指すも、永年に亘って養って来たと思える非人道的な性格？…自分の病のアルコール依存症は認めたくない心「否認の病」ともう一方、認め乍ら断酒して行かねば人間として、人の父親としての葛藤の連続の日々での断酒例会に出席、そこには断酒生活の「心の安らぎ」自分の生きていく存在価値を見出す事が出来始めていた。改めて入会当初を思い起こし、もう一度あの源点に還り、断酒会の例会の大切さを此の胸に秘め乍ら…

# 創立四十六周年記念例会 体験発表



安岡 利勝  
(本人)

何時もお世話になっております。

呉みどり断酒会の安岡利勝です。呉みどり断酒会創立四十六周年、誠にめでとうございます。この記念すべき日に体験発表の機会を与えて頂き、感謝しております。

酒を飲めば三・四日徹夜でも仕事が出来、元気に何でもバリバリ出来る。そして、素面では緊張してまともに人と話すことも出来ない人付き合いの苦手な私でも酒を飲んでいけば楽しく話すことが出来、友人も増えていきました。そんな酒でしたが、休日は朝から酒を飲んで出掛けるようになり、気が付けば友人は減って行きました。そして、家族の足を引っ張る酒、心を傷付ける酒になっていきました。

平成21年の年末の事です。酒を何とかせにやいけんと思いはじめると反対に思い詰めるようになり、益々苦しい酒になっていきました。止めようと思えばいつでも簡単に止められるよ!!と思っていたのですが、止めたのに止められない酒、飲む度にまた飲んでしまったと苦しむ。そして、更に家族の心も苦しめる自分の酒。私は近所の内科に駆け込みました。そこで呉みどりヶ丘病院に紹介状を書いてもらい通院する事になりました。通院しながらも酒を切ることが出来ない。『どうすればいいのだから?』と、家族に洩らすと嫁が断酒会やAAというものがあるとインターネットで調べてくれました。水曜日に呉椿会館で行なわれてると書かれてありました。水曜日に恐る恐る呉椿会館に電話をかけました。椿会館の事務所の方が出て下さったのだと思います。『断酒会の方達が続々と集まって

おられますよ。』と云って下さいました。その時、私は行くことが出来ませんでした。

やはり、止まらない酒。翌年の2月21日土曜日のみどりヶ丘病院の診察で院長先生に断酒会の事を聞いてみました。『今日の18時からここでやっている。』私は行きました。まず人の多さに圧倒され、空いている席にチョココンと座りました。発表されている人の話によると2時間もあるとのことでした。『エッ、2時間もあるのか!!』そして、知らない人ばかり。私は耐えられなくなって、途中で逃げ出すように帰って行きました。それから一週間。やはり酒は止められません。次の土曜日、

院長先生に『断酒会に入会するにはどのようにしたらいいか?』とお聞きしました。すると『横に二人くらい座つとるじゃろう。あれに云うたらいい!!』と教えて下さいました。

酒を止めるには断酒会に入会するしかないと思いをし、2月28日に呉みどり断酒会に入会しました。私は緊張して自分自身に壁を造っていました。先輩達が何時も話し掛けて下さいました。初めての水曜例会が終わった時、大先輩会員が後から私の肩をポンと叩いて下さいました。もの凄くホッとしましたのを今も覚えています。入会して一ヶ月経った時、私は再飲酒しました。断酒会に入っていれば、断酒会が私の酒を何とかしてくれる。止めさせてくれると云う甘い考えが有りました。何度も失敗をしながら必死で通いました。気持ちが悪く不安定な時は、或る大先輩が『もつと強くならんにや!!』と肩をグウツと握って下さったこともあり。気が付けば、自身自身の周囲に造っていた壁は無くなっていて、みどり会の仲間と馴染むことが出来るようになっていきました。平成23年9月12日、やっ



との思いで断酒継続一年を迎えることが出来、涙、涙で発表させて頂きました。渡部会長も目がうるうるしていました。会員の皆さんも喜んで下さいました。

しかし、翌年の1月9日、私は近所のスーパーにうどん玉を買いに自転車を出掛けました。馬鹿なことに私は『上手いこと飲めるかもしれない!!』と酒を一杯買いい、この一杯が止まらなくなり、コンビニ、酒屋のはしごをしてしまい、どんどん飲んでいきました。帰宅後には消毒液を飲んでいました。嫁に消毒液を取り上げられ『酒を飲んでいる姿を見ただけでどれだけ嫌な気持ちになるのか分かっていのか!!。断酒会に通いながらも酒を飲むのなら、脱会処分をさせてもらえ!!』と云われました。断酒会を辞めたら、ずっと飲むようになる。絶対に飲酒を止め続けることは不可能。

翌日10日の朝、私は朝早く目醒め、外に出掛けました。酒を飲むか…、飲まずに仕事に行くか…。自分の中で葛藤が始まりました。確か6時半頃だったと思います。渡部会長に電話を掛けました。『飲むなよ!!。仕事に行け!!。』



感激の一年表彰

不安定な自分は話をしたおかげで酒を飲まずに仕事へ行くことが出来ました。また、問題は仕事が終わってから遣つて来ました。私は、仲間も家族も裏切っている。昨日飲んでしまった私は、家に帰ることが出来ない。家の駐車場に車を止め、家には帰らず近所の先輩のお宅へと、トポトポ歩いて行きました。先輩の駐車場には車はありませんでした。涙を堪えながら電話を掛けると先輩の奥さんが出て下さいました。そして『今、みどりヶ丘病院の院内懇談会に行つて来たよ!!』との返事。どうしよう!!。また、トポトポと私は歩き始めました。家には帰れない!!。丁度その時、携帯電話に嫁からのメール

が届きました。『御飯が出来たら、帰つておいで!!』と。何とか飲まずに家に帰ることは出来たのですが、昨日の月曜日に飲んでしまった私は…、仲間を裏切ってしまった私は…、水曜例会に…、断酒会に行くことが出来ない。あれこれ悩んでいると、ふと、広島ふたば断酒会の先輩と話をした時のことを思い出していました。私が『今度、酒を飲んだら僕は断酒会にはもう行けない!!』と話すと、すると、ふたば会の先輩は『それでも酒を止めようと思つたら、断酒会しかないよ!!』と話して下さったことを!!。そんな事を考えていると、懇談会に行つていた先輩から電話が掛かつて来ました。私は、『酒を飲んでしまったから断酒会に行けない!!』と話すと、その先輩は『馬鹿なれじゃノオ。こいつは絶対に酒は飲まんと思われとるより、こいつはすぐにのむけえノオ!!』と思われとるほうが、気持ちが楽でええじゃろうが!!。明日の水曜例会は絶対に来いよ!!』との言葉に救われた気持ちになり翌日の水曜例会に行くことが出来ました。

この日の水曜例会に私が出席し

てなかつたら、私は断酒会に居ないでしょう。そして、今夜のこの席で体験発表をして居る私は勿論居ません。危ない時や気持ちが不安定な時、先輩の家に上がり込んで数時間も愚痴や話を聞いてもらつたり、仲間電話を掛けたり、メールをやり取りしたり、色んな場面で助けて頂きました。現在、私は独りではありません。自分の独り善がりの痩せ我慢と根性だけでは止めることがまったく出来なかつたお酒。独りでは止め続けることが出来ないお酒。みどり断酒会の仲間に入ることが出来、会員の家族の皆様のおかげで、今私が居ると思つています。改めて、心からお礼を申し上げます。本当に有り難うございました。

また、今日この体験発表を行うにあたり、私自身にとつては物凄いプレッシャーでしたが、何とか乗り越えることが出来ました。本日は、貴重な時間を頂き有り難うございました。

これからも、みどり断酒会の一員として、一日断酒・例会出席を念頭に頑張つて参りますので、宜しくお願い致します。



金子 克子  
(家族)

皆様こん晩わ。お世話になって  
います。呉みどり断酒会家族、金  
子克子です。よろしくお願いいた  
します。

呉みどり断酒会創立四十六周年  
おめでとうございます。この記念  
すべき日に体験発表の場をいただ  
き有難うございます。

私の夫は高齢者といわれる年齢  
六十九歳の誕生日を目前に、みど  
りヶ丘病院にお世話になることにな  
ったのです。夫は元海上自衛官。  
飲酒歴は、約50年あります。

私達が結婚した時、お世話して  
下さった方からは『上陸した時は  
機嫌よく飲ませんといかんよ』  
と、言われていました。そのせい  
もあつたと思いますが、私は夫に  
酒の事は何も言わず長くくいつぱ  
い飲んでしまいました。夫には生  
活だけはきちんと出来る様にして  
欲しいと伝えたのを思い出してい  
ます。二年を過ぎた頃から、よく  
友達を連れて帰り、お酒がたくさ  
ん入る様になりました。大量にお

酒が入った時は、何んだかんだと  
言つて一発ひつぱたく行為が始ま  
りました。外見は悪い、愛想もな  
い。お上手も言わない。こういう  
私が入らなかつたのかとも今  
は思っていますが、一定量を超す  
と暴力がありました。結婚の仲立  
ちをして下さった奥様に相談に行  
きました。『酒を飲んでのこと  
じゃろう。それくらい我慢をせえ』  
と言う事でした。毎日ではないし、  
給料はきちんと渡して貰つていた  
ので、そういう時は涙を流して自  
分の腹の内に収めて来ました。船  
での勤務が長く『飲めない日』が  
あつた事で入院までの期間、体も  
持ち堪えたのかも知れません。

自衛隊を定年退職後は毎日欠か  
さず結構な量が入るようになりま  
した。この頃から酒を飲んでの暴  
力はなくなりましたが暴言が始ま  
りました。定年後は三回の転職を  
し、この間、歓送迎会、花見、そ  
の他諸々の宴会が多数あり欠かさ  
事無く出席されたと思います。回  
を重ねる内に帰りは遅くなり、外  
で寝る。小の失敗も何度か。怪我  
をして板の間中血だらけになった  
事も、又、私は追い回されて何度  
外に出た事か。後始末はその都

度、私がして来ましたが、ある日  
新聞に「酔っ払いの後始末は本人  
にさせなければ自覚をしない」と  
いう記事があり、もう、うんざり  
だつた後始末を自分でして貰うよ  
うにしました。本人は「誰がした  
ん。」という具合です。お酒が大  
量に入つても次の日には普段通り  
に仕事に行つていました。どうに  
もならなくなつたのが入院の半年  
前、私に『別れよう』と言出し  
たのです。夜遅く二人が大声で言  
い争いになりました。以後、殆ん  
ど毎日二人が大きな声で言い合つ  
て、気に入らなくなるとコップ  
が飛ぶ、台の上の物を払い落す、  
汚い言葉で罵られ、度重なる『別  
れよう』と、いう言葉。手が震  
え、一度だけですが娘とも掴み合  
いになつた事もあります。年明け  
の正月『今年はどうな年にしたい  
か?』と聞いてきました。私は『穏  
やかに暮したい』と、夫は『毎日  
穏やかだ。』といひます。毎日  
大量の酒が入り、いがみ合い、物  
は飛ぶ。どう見ても穏やかとは思  
えません。夫は決して隠れて飲む  
事は無かつたと思います。二時間  
おきにコップを持つていました。  
お湯割りがいつの間にか生地のみ

ま入り、堂々と私の目の前で飲ん  
でいました。4ℓのボトルが少な  
くなつてくるとラップ飲みです。  
この様子を初めて見た時は、もう  
駄目だと私は思いましたが、『こ  
の人を助けたい、何とかしなければ』  
という事は全く思いませんで  
した。元々、私の言うことを素直  
に聞き入れる人ではありませんで  
したし、何かにつけて自分が指示  
し反対でもしようものなら大声が  
飛んでいました。入院前の約六ヶ  
月の間、本当に嫌な嫌な期間でし  
た。ある時、娘の『少し間を空け  
て見たら』という言葉に背中を押  
された形で家を出ることにしたの  
です。以後、息子と娘で相談し、『入  
院をさせるから』という電話を貰  
いました。それで当院へお世話に  
なる事になつたのです。朝早く連  
れて来たようです。紹介状も無く  
いきなりの診察でしたが、職員  
の優しい対応に『安堵した』と、  
言つてました。診察後は入院とな  
り三病へと。鍵が掛かるガシヤツ  
と云う音に息子は少し青褪めてい  
たと聞いています。それから、二  
年半の間当院でお世話になる事  
になりました。私は二・三年帰ら  
なければいいのと思つていま

た。まさにその通りとなったので  
す。初めて院長先生との面談をし  
た際に『この年齢で初回の入院は  
ボケが出るよ』と、言われまし  
た。兎に角、引き受けて貰えた事  
に安心した私はどうにでもなれば  
いいという気持ちですから何も深  
刻には考えなかつたように思いま  
す。何度目かの院長先生との面談  
で『酒の失態を本人に話しなさい』  
と、言われてポツポツと話し始め  
たのですが夫は『俺はそんな事を  
するはずが無い、する訳がない』  
と言うのみで聞く耳を持ちません  
でした。何時の頃からか、夫の様  
子が変わつてきました。自分の身  
仕度が変わり、動作と言えば、摺り  
足で歩くのでよく蹴躓いて、怪我  
をしてその都度看護師さんのお手  
を煩わせていたようです。ボケが  
出るという事は聞いていましたが  
出たらどうするかという事は聞い  
ていませんでしたから、『ボケが  
出たから帰らなさい』と言われた  
ら困ると考えた私は看護部長さん  
に相談しました。『刺激する事が  
一番でしょう。』と。兎に角その  
頃はよく寝ていました。何を聞い  
ても『分らん、知らん』の言葉し  
か出て来ません。環境が少し変わ



ればと、週二回の面会、一緒に歩  
いたり、一方通行の話をしたり、  
四時間の外出から、外泊をお願い  
し、何度か繰り返しました。その  
内に私自身がこれなら受け入れら  
れると感じる事が出来るようにな  
りました。本人は、酒が悪かつた  
というような事は一度も口にしま  
せんでしたが、『院長先生が良い  
と言われるなら家に帰らせてあげ  
たい』と、申し入れ退院の許可を  
頂きました。私はそうは言つたも  
のこのボヤけた状態で帰つて、  
これから先この人はどうなるんだ  
ろうと心配のまま、退院の翌日、  
十月一日に呉みどり断酒会へ入会  
させて頂きました。  
退院前の外泊時、水曜例会に出

させて頂いた時、宗政ご夫妻の一  
言一言にハツとするものがあり、  
この言葉で退院をさせてもらおう  
と、考えたような気が致します。  
断酒会へは初めての家族会の席で  
藤川さんに出会い、彼女から断酒  
会に出てみないかと誘われ、藤川  
さんご夫妻について出させて貰つ  
ていました。藤川さんからは沢山  
のお話や体験を聞き私の話も聞い  
てもらい、大変心強かつたです。  
又、諸先輩の方々の真剣に断酒に  
向けて頑張つておられる姿は私の  
緊張を増幅するような気がしまし  
た。断酒するには例会が一番大切  
な会と聞いてましたが、夫の入院  
が長引くにつれて夫に対する憎し  
みは増大するばかりで私の断酒会  
への足は遠のいた気がします。退  
院をさせて頂いたからには断酒会  
へ出なければと。ボヤけた状態の  
夫を引っぱる感じで出席していた  
と思います。夫は入院中の事、酒  
での失態は全く覚えてないと言つ  
て居ります。

か休まずに出席していました。一  
年の表彰も頂き毎日も穏やかに過  
ぎていました。ホツとしたもの  
の、ちよつこり入りました。又、  
一から遣り直しです。それから約  
十一ヶ月、今日の日を迎えまし  
た。私としては、諸先輩の方々の  
後ろ姿を見させて頂いて私達にも  
出来るのではと、思わせて頂いて  
おり、又、断酒期間を開けてはい  
けないと考えています。一年、開  
いてしまつた事は残念ですがこれ  
から先、私達には遣り直す時間は  
ありません。兎に角、夫には断酒  
と例会出席を続けて貰い、日々穏  
やかに過せる事を願っています。  
今日まで、院長先生をはじめ、  
看護師の皆様、病院スタッフの皆  
様、又、呉みどり断酒会の皆様方  
には大変お世話になつています。  
本当に有難うございます。これか  
ら何かたと厄介を掛けるやも分  
かりませんが、何卒ご指導の程、  
宜しくお願い致します。  
二人で健康に気を付けて例会に  
出席させて頂き、皆様のお話を糧  
に後に付いて行つて断酒継続をし  
て行きたいと思つております。  
今日は、ご静聴まことに有難う  
ございました。



吉川 幸江  
(アメリシスト)

皆さん今晚は。呉みどり断酒会  
アメリシスト吉川幸江です。いつも  
お世話になっております。本日は  
創立46周年記念例会、誠に改めて  
ありがとうございます。このような記念  
例会の席で体験発表をさせて頂き、  
心より感謝しております。有難う  
ございます。

私は昭和53年11月9日、父紀昭、  
母己幸の次女として誕生しました。  
産まれた時は千六百グラム程の低  
体重で身体もあまり丈夫ではなく、  
しばらくは保育器に入っていたと  
聞いております。幼い頃は、病氣  
がちで学校を休んでは一人で病院  
通いをしていた事をよく覚えてい  
ます。両親がとてもし事熱心で殆  
んど家に居ないため、病氣の時  
特に淋しい思いをしました。

中学生になると反抗期となり、  
両親や祖父の言う事を聞かずに  
隠れては悪さを繰り返して、その度  
にひどく叱られる毎日でした。四  
人兄弟の次女でしたが、悪さをし  
て叱られることに納得できても、

自分と兄弟を比較される事がどう  
しても許せない!!。私は私!!。  
そう心の中で反発し続け高校二年  
生まで過しました。しかし、高校  
二年生の時、祖父を病氣で亡くし  
たことが大きな転機となりました。

私が幼い頃に祖父は脳出血を発  
症して左半身麻痺となり、私は幼  
い頃から身体の不自由な祖父の手  
助けをしていました。祖父が亡く  
なつてから、自分自身の将来につ  
いて真剣に考えるようになり、祖  
父のように病氣や障害を抱えて生  
活している方の手助けがしたい!!。

そう思い、介護の仕事を目指しま  
した。幸いな事にすぐに就職が内  
定し、そして高校在学中に研修を  
兼ねてアルバイトをさせて頂きま  
した。その後は正社員となり、仕  
事は重労働でしたが、とても遣甲  
斐を感じていました。職場の中  
でも溶け込める様になり、その頃か  
ら仕事帰りにお酒を飲みに行くこ  
とが多くなりました。ある程度飲  
めば気分も楽になりました。次の日  
も真剣に仕事に打ち込めてました。

しかし、日が経つにつれ仕事に  
影響するお酒へと変わり、職場の  
中で孤立し、居辛さに堪えられず  
自ら退職届けを出しました。その

後はお酒に溺れ、更に生活は崩れ、  
不安定な日々が続きました。

22歳の時に結婚をし、長男を出  
産。今思うと、不思議なくらい、  
妊娠中から母乳の時期を終えるま  
で、あれだけ飲み続けていたお酒

がピタリと止まり家事と育児に一  
生懸命になり、それと同時に私も  
頑張れるんだ!!。遣ればできる  
のだと自信を取り戻してました。  
しかし、子供が産まれてからは、  
夫に対して不満がつのり、夫との  
喧嘩が絶え間なくなつてしまいま  
した。父親になつても何ひとつと  
して変わってくれない。私は一人  
で頑張つている…。子供に対して

一生懸命になつて行けば行く程、  
夫に対して私の態度は悪くなり会

話すら無くなりました。当然、そ  
んな私に対しての夫の態度も悪く  
なりました。お互いに耐えられず、  
まともに話し合うこともないまま  
離婚となりました。

当時、子供はわずか10ヶ月!!。  
これから先、どうすれば良いのか  
…、生けて行けるはずがない!!。  
そんな絶望感と絶対の独りで子供  
を育ててみせるという意地の固ま  
りでした。しかし、自ら選んだ事  
であつても日が経つにつれ辛くな  
り、何かに逃げたいという思いで  
また口につけたお酒に溺れていき  
ました。今だけいいから楽にな  
りたい。今だけいいから何も考  
えたくない。そんな思いでした。

でも、一度逃げてしまえば中々現  
実と向き合うことができませんで  
した。明日から、しつかり遣つて  
行こうとお酒を飲みながら考えて  
みても、それはその時にお酒を口  
にする言い訳と自分自身への慰め  
にすぎず、次の日もその次の日も  
お酒を飲み続けていました。

それからは更に滅茶苦茶な生活  
となつて行き、次々に問題を起こ  
すようになりました。お酒を買い  
に行けば帰り道が分からない!!。  
お酒を抱えたまま川の中に落ちた

後はお酒に溺れ、更に生活は崩れ、  
不安定な日々が続きました。



り、溝に嵌まって怪我をして人に助けて貰う。自宅で突然白目をむいて倒れ、子供が『お母さんが死んだ!!』と、大騒ぎをして近所に駆け込んだこともありました。その時の私は、幼い子供がどれほど不安で苦しい思いをしているのかということも考えられず、近所に助けを求めた事に対して酷く叱りつけました。近所の方にお酒を飲んで滅茶苦茶な生活をしている事を知られたくなかったからです。そして、このような数々の失敗も、入院してからお酒が切れてしばらく経ってから少しずつ思い出した事であって、長い間お酒を飲んでいた頃の記憶は殆んどありませんでした。まさかお酒が原因で、自分がここまでの問題行動を繰り返していたとは思いませんでした。



仲間との“和”の中で…

今から6年前に呉みどりヶ丘病院・五病棟へ初入院しました。入院当初は記憶が無かったので何故入院しなければいけないのかという事が理解できず、投げやりな気持ちから問題行動を繰り返す毎日でした。今はお酒を飲んでいないのだから早く退院したい。そんな思いでした。結局、退院してからその足でお酒を買い、またお酒に溺れ、二週間程で再入院となつてしまいました。

再入院したものの、投げやりな気持ちから問題行動を繰り返す日々が続きました。周りの人に暴力を振るい、怪我をさせてベットに抑制されたかと思えば、自分の手首を切り抑制される。いくら職員に注意を受けても問題行動を止められず、迷惑を掛け続けました。自分の行動を振り返り、反省する事ができなかったのだと思います。

平成23年8月、呉みどり断酒会へと繋がらせて頂いたものの、元々集中力が無く、皆さんの体験発表も落ち着いて聞く事ができずにいました。聞く事ができないので、今までの自分の失敗も振り返る事ができずにいました。みどりの会の先輩に相談すると、先ずは例会の二時間に出席しようとする姿勢だけでも見て頂くことが大切。その姿勢が例会の二時間飲まずに居られたという自信に繋がるのだと教えて頂きました。

その言葉を信じて、先ずは例会が始まって三十分…。そして、四十分。一時間と座っている時間を少しずつ延ばして行く事で、例会出席を心掛けて行きました。そして段々と皆さんの発表の一つ一つが心に響くようになり、自分自身を振り返り、反省する切っ掛けとなりました。いくら過去が苦しかったとはいえ、自分自身がお酒に溺れ、周りの方々に心配や迷惑を掛け続けて来たことは消しようのない事実。先ずは、過去をお出し出すこと、自分の失敗に気付くことが反省に繋がって行くのではないかと思える自分自身に気付きました。そんな気持ちに変わるまでには本当に時間が掛かりました。今は例会出席を心掛けることで、今まで自分の中に閉じ込めていた苦しい過去。思い出そうとせずにはいた失敗。周りの方に掛けた迷惑を思い出し、自分だけが苦し

い、辛いと思いつ込んでいた間違いに気付くことができています。今、お酒の無い日々を送る事ができるのも常に周りの方々に支えられているお陰だ。私の間違った考えと行動が、どれほど多くの人に心配や迷惑を掛けて来たかを忘れず、日々反省と感謝の気持ちで頑張つて行きます。

今夜のこの貴重な体験を今後の糧に、まだまだ未熟な私ですが、皆様の後について頑張つて行きますので宜しくお願い致します。

御静聴、有難うございました。

断酒継続表彰者

(創立46周年記念)

- ☆一年表彰 小林智佐子
- ☆ 吉川 幸江
- ☆ 安岡 利勝
- ☆ 山内 鉄平
- ☆ 島本 辰馬
- ☆三年表彰 堂脇 正美
- ☆ 鍋山 秀一
- ☆ 熊野 克幸
- ☆五年表彰 春日世津子
- ☆七年表彰 佐伯 忠
- ☆ 藤田 数夫
- ☆十年表彰 石橋 剛
- ☆二十年表彰 大段 一弘

今年も創立四十六周年記念例会が2月2日、我々の原点である呉みどりヶ丘病院で多くの朋友達に参加して頂き、盛大に行われた。



“もっと強く、もっと賢く…”

**創立四十六周年記念御祝・御芳名**

- 呉みどりヶ丘病院  
院長 長尾澄雄様 一〇、〇〇〇円  
山根文字子様 五、〇〇〇円  
田代時弘様 五、〇〇〇円  
佐藤正明様 三、〇〇〇円  
河崎千鶴様 三、〇〇〇円  
住吉秀則様 三、〇〇〇円  
嘉藤貴美子様 三、〇〇〇円  
北田 武様 三、〇〇〇円  
高野直美様 三、〇〇〇円  
沖本静彦様 三、〇〇〇円

**寄付者御芳名**

- 新谷義隆様 三、〇〇〇円  
森田悠子様 三、〇〇〇円  
保田有加里様 三、〇〇〇円  
古沢美野里様 三、〇〇〇円  
石川尚子様 三、〇〇〇円  
中田克宜様 一〇、〇〇〇円  
廣島 寄付者御芳名  
十二月度  
呉 藤川芳文様 五、〇〇〇円  
二月度  
呉 藤田教夫様 一〇、〇〇〇円  
十二月～二月度  
感謝箱 一、六五八円

**新入会員紹介**

- 呉市阿賀北一―四―四五 第三大谷荘 村上 哲士  
● 呉市幸町三一―六―四〇三 増田 洋平  
● 呉市音戸町南隠渡一―十一―三八 対川 豊  
● 呉市海岸一―八―一七〇一 青木 大輔
- ☆一年 安岡 利勝 1月10日  
☆〃 山内 鉄平 1月18日  
☆〃 島本 辰馬 2月1日  
☆二年 舛田 厚 1月29日

**断酒継続おめでとう**

- 4月14日 第48回中国断酒ブロック (島根) 大会 (三刀屋町文化体育館『アスパル』) 5月11～13日 第69回松村断酒学校 (本山町プラチナセンター) 5月25～26日 第19回山口県断酒セミナー (山口県セミナーパーク) 6月9日 第43回広島県断酒(因島)大会 (因島市民会館) 6月22日～23日 第43回全断連通常総会 (晴海グランドホテル) 7月20～21日 第12回鳥取県断酒会 一泊研修会 (ホテル 大山) 8月4日 第48回四国断酒ブロック (愛媛) 大会 (松山市ひめぎんホール) 8月30～9月1日 第43回山陰断酒学校 (松江市玉湯町公民館)

**行事予定**

**平成24年12月～平成25年2月度例会動員数**

行事名	回	正会員	家庭会員	賛助会員	社会会員	院内会員	17-セナ	合計
土曜例会	13	410	158	72	315	722	138	1,815
水曜例会	12	349	143		5			497
家族の集い	3		20					20
ブロック例会	2	21	13					34
懇談会	3	3						3
特別院内例会	2	47	15					62
新会員を囲んで	3	20	17					37
第1回中国断酒ブロックメシストのついで	1	1	1					2
呉みどり断酒会第46回断酒なし忘年感謝会	1	38	16					54
呉みどりヶ丘断酒会第43回断酒なし忘年感謝会	1	21	7					28
平成25年度新年合同初例会	1	36	15					51
第36回愛媛県ワシントンセミナー	1	8	2					10
呉みどり断酒会創立46周年記念例会	1	42	13					55
県連理事会	3	11						11
呉みどり断酒会役員会	3	21						21
合計		1,028	420	72	320	722	138	2,700

**平成二十五年 役員**

- 常任相談役(監事) 田中 正直  
会長 渡部 憲  
事務局長 曾根 敏浩  
常任理事(編集・進行) 石橋 剛  
理事(行事) 佐伯 忠  
理事(事務局) 廣野 幸則  
理事 堂脇 正美  
理事(会計) 鍋山 秀一  
理事 片山 久人  
理事 北舛 武康  
理事 福永 里美  
役員一同、頑張ります。御引き立ての程、宜しくお願ひ致します。